

郷土の歴史を学んで伝えよう

市では地域固有の歴史・史跡を大切に守り伝えていくための取り組みを行っています。

市内の文化財を見つけてみよう

市内に残る指定文化財は全部で130件。毎年少しずつ標示板の設置・改修を進めています。

仏像や古文書など公開されていないものもありますが、その多くは屋外で目にする事ができるものばかりです。古墳や寺院、神社のような大きなものから、石造物などの小さなものまで、形や時代はさまざまです。写真は清和甲にある永命寺の鐘楼、梵鐘をつるすお堂で、四本柱に檜で構成された鐘楼建築の一つです。

これからは夏の祭礼シーズンを迎えますが、こうした伝統行事も無形民俗文化財と呼ばれ、歴史を伝える大切な文化財の一つとなっています。身近にある標示板を見つけてみてください。



設置された標示板

郷土の先覚者・大原幽学

小学校では4年生になると地域の歴史を調べる学習が始まります。この地域で社会に尽くした先人たちを調べたり、残された資料などに直接触れたりすることで、地域社会の一員としての自覚を持ち、郷土を誇りに思う気持ちを育むことができます。市では、より分かりやすく郷土の偉人を知ってもらえるように「ふるさと歴史マンガ大原幽学」を市内の全小学校4年生に配付しています。農村指導者としての活躍がどんなものだったのか、当時はどんな時代だったのか、大人にも好評の冊子です。

子どもたちの学習を支援しています

市内には博物館施設である大原幽学記念館があります。記念館では、幽学の遺品・著作のほかに、この地域ゆかりの歴史を紹介する展示も行っています。

市内の小中学校の郷土学習や体験学習にも多く利用されています。旭市の歴史や市内に残る史跡・文化財の重要性を理解してもらおう良い機会となっています。皆さんも記念館に足を運んでみませんか。



小学生の「みのとかさ着用体験」



24 校長リレーエッセイ



「中和っ子」の 健やかな成長を祈って

中和小学校長
高野 英之

本校は、明治10年香取郡諸徳持村の徳西寺に開校された諸徳持学校を前身とし、今年度で創立139年を迎えます。学校教育目標「なかよく かしくく 元気よく」のとおり、子どもたちは明るく伸び伸びと育っています。

私が本校に着任し、まず始めに子どもたちの素晴らしさを感じたのは、始業式で聞いた「校歌」の歌声でした。本校の子どもたちには「美しい歌声」が代々引き継がれています。旭市小学校音楽会での高学年児童による合唱も

素晴らしいハーモニーです。

このような子どもたちを支えていただいているのは、保護者や地域の皆さんの本校に対する温かな支援によるものと感じています。子どもたちが毎年楽しみにしている「すずがね祭り」では、地域の水田をお借りし、自分たちで田植えや稲刈りをして収穫できたもち米で餅つきをし、そのおいしさを堪能しています。また生活科学習ではサツマイモを始め、多種にわたる野菜作りに、地域の皆さんから栽培方法などを指導していただき、たくさんの収穫の喜びを味わっています。ほかにも地区合同運動会、職場体験学習、福祉施設訪問活動など、地域の皆さんの協力により、知徳体の調和のとれた教育活動が実践されています。今後とも学校のよい伝統が引き継がれていくことを願いつつ、地域の皆さんによる本校教育活動への支援を、今年も引き続きいただけることに感謝しています。こうした思い出が大きくなって、子どもたちの生きる心の支えとなることと思います。